

PEAVEY
TUBE GUITAR AMPLIFIER

5150 series

5150II/5150/5150COMBO

取扱説明書



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment Specialist

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL: 0476-22-9333 FAX: 0476-22-9334

はじめに

この取扱説明書には諸機能の説明、および各機能の使い方が詳しく書いてあります。商品の性能をフルに発揮させ、未永くお使い頂く為にはこの取扱説明書をよくお読みになり、注意点や警告については特に目を通して下さい。。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管して下さい

ご使用の前に

1. この取り扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. 水には大変弱いので、雨などがかからないよう充分ご注意下さい。
3. 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動及び輸送時には大きな衝撃が加わらないようにして下さい。
4. 本機の設置場所は直射日光の当たる場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所で御使用下さい。
5. 定格電圧 AC100V, 50/60Hz で御使用下さい。
6. 電源コードは機材への挟みこみ等、無理な力が加わらない様御注意下さい。
7. 信号の入出力端子に、許容範囲を越える異常電圧が加わらない様にして下さい。
8. 故障や感電事故を防止すると共に、性能を維持する為にも、ケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理が必要な時には、販売店、もしくは輸入代理店までお問い合わせ下さい。

リアパネル

■電 源

● 電源ケーブル

本体に AC 電源を供給する為の電源ケーブルです。適切にグラウンドされた AC 電源に接続して下さい。不適切なライン電圧を使用した場合、機材が損傷する恐れがあります（電圧表示をご確認下さい）。ラインコード・プラグから決してグラウンド・ピンを取り外したりしないで下さい。

● FUSE : ヒューズ

警告：ヒューズは必ず電源コードをコンセントから抜いてから取替るようにして下さい。5150 シリーズには 5 アンペア（5150COMBO は 3 アンペア）のヒューズが、ヒューズ・ホルダーの蓋の中に入っています。これは必ず同型で同値のものと取替えるようにして機材の損傷を避け、保証対象外にならないようにご注意ください。ヒューズが度々とんでしまうような場合は PEAVEY 正規代理店のサービスセンターに修理をご依頼下さい。

● GND : グランド・スイッチ

このスイッチは 3 段階のスイッチで、通常 “ 中央の位置 (0) ” にしておきます。グラウンド・スイッチが中央位置に設定してある状態でスピーカーからハム・ノイズが出ている場合には、このスイッチを + または - のどちらかにしてハム・ノイズを小さくします。もし、ハム・ノイズ障害がずっと続くようであれば、PEAVEY 正規代理店のサービスセンターにご相談下さい。

■ IN / OUT

● SPEAKER OUTPUTS : スピーカー端子 (5150II / 5150 のみ)

この端子はスピーカー接続用端子です。最小インピーダンスは 4Ω です。

● EXTERNAL SPEAKER : 外部スピーカー端子 (5150COMBO のみ)

外部スピーカーへの出力です。最小インピーダンスは 16Ω です。

● 4Ω 8Ω 16Ω : インピーダンス選択スイッチ (5150II/5150 のみ)

このスイッチで、スピーカー端子に接続しているスピーカーに適したインピーダンスを選択します。2 台のスピーカーが共に同じインピーダンスの場合は、このスイッチをその半分の値に設定して下さい（例：16Ω のスピーカー 2 台の場合、スイッチを 8Ω に。8 オームのスピーカー 2 台の場合、スイッチを 4Ω に）。

● REMOTESWITCH : リモート・フットスイッチ端子

付属のリモート・フットスイッチ接続用端子です。フットスイッチのケーブルは必ずアンプの電源を入れる前に差込んで下さい。フットスイッチにてコントロールできる機能は以下のとおりです。

5150HEAD

LEAD/RHYTHM チャンネルの選択（左側スイッチ）とエフェクトループの ON/OFF（右側スイッチ）が可能です。フットスイッチ使用時には、本体フロントパネルのチャンネル・セレクトスイッチを LEAD にすることで、フットスイッチでの LEAD/RHYTHM チャンネルの切替が可能になります。

5150II

LEAD/RHYTHM チャンネルの選択（左側スイッチ）と Crunch Gain boost の ON/OFF（センターのスイッチ）、エフェクトループの ON/OFF（右側スイッチ）が可能です。本体フロントパネルの LEAD/RHYTHM を LEAD にすることで、LEAD と RHYTHM の切替が可能になり、RHYTHM チャンネルの CRUNCH スイッチを押し込むことで Crunch gain ブーストの ON/OFF が可能となります。

5150COMBO

LEAD/RHYTHM チャンネルの選択（左側スイッチ）と REVERB の ON/OFF（右側スイッチ）が可能です。本体コントロール部のチャンネルセレクトスイッチを LEAD にすることで、フットスイッチでの LEAD/RHYTHM チャンネルの切替が可能になります。

• *EFFECTS SEND/RETURN* : エフェクト・センド / エフェクト・リターン

外部エフェクターやプロセッサに信号を送り、エフェクト処理された信号をリターンへ戻す為のセンド / リターン端子です。このエフェクト・ループを使用する際はゲインエフェクト（コンプレッサー、ディストーション等）の使用を避けるようにして下さい。

モノラル・フォンプラグ付のシールドケーブルで SEND から外部のエフェクト・プロセッサの INPUT へ、そしてエフェクト・プロセッサの OUTPUT からギターアンプのエフェクトリターンへ戻します。

5150 と 5150II でフットスイッチをご使用の場合、左側のスイッチでエフェクト・ループの ON/OFF が可能です。

• *PREAMP* : プリアンプ出力 （5150II/5150HEAD のみ）

この出力から楽器用のシールド・ケーブルを使い、ミキサー/テープレコーダー等にプリアンプからの信号を送ることが可能です。プリアンプ出力にケーブルを接続しても、アンプの通常操作には影響しません。

■ バイアス調節システム

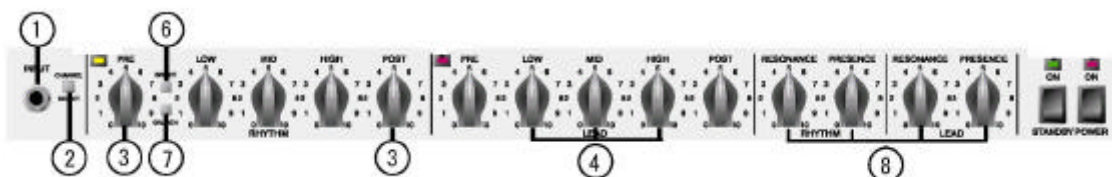
• *BIAS TEST* : バイアス・テストターミナル（5150II のみ）

グリルの後ろにある調節ツマミはパワーアンプの真空管のバイアスを計測・調節するためのものです。バイアス調節に関しては資格のある技術者にご相談下さい。

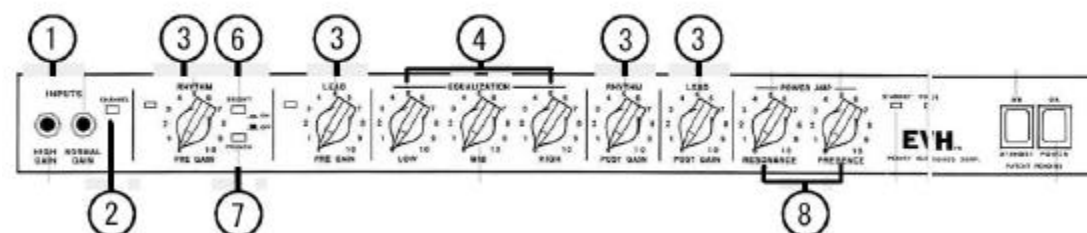
各部の説明

フロントパネル

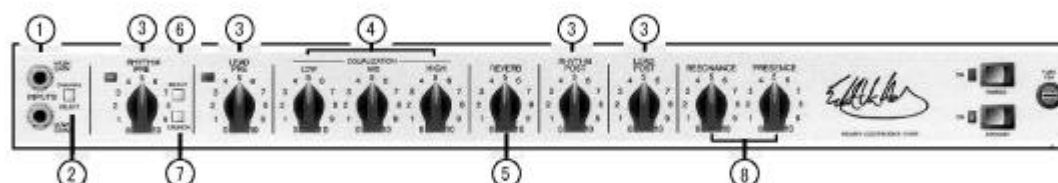
〔5150II〕



〔5150〕



〔5150COMBO〕



■ オン・スタンバイ

- **POWER** : パワー・スイッチ / LED

電源スイッチです。“ON”の位置にすると、電源スイッチの上の赤い電源LEDインジケーターが点灯し、本体に電源が入ったことを示します。

- **STANDBY** : スタンバイ・スイッチ / LED

音を出す必要がない時（チューニングをする時やリハーサルから本番までの時間等）にはスタンバイ・モードにしておくことができます。電源をOFFにしても音が出ない状態にすることはできますが、真空管は冷えてしまいます。スタンバイ・モードでは真空管は暖まったままの状態を保ちウォームアップする時間を省くため、すぐに使用することができます。このスイッチの上にあるスタンバイLEDインジケーターが点灯している時はアンプが使用可能になっている時です。

■ 入力端子

INPUT

それぞれの機種のINPUT端子は以下の通りです。

5150II

INPUT: 入力端子は一つとなります。ギターの種類に関係なく、様々なギターの出力レベルに合うように設計されています。5150IIのゲインの許容値は非常に高いので、必ず高品質な楽器用ケーブルを使用してノイズを極力避けるようにして下さい。

5150

5150 には HIGH (1) と NORMAL (2) と 2 種類の入力があります。HIGH ゲイン入力は NORMAL ゲインより 2 倍のゲインがあり、最大限のオーバードライブを得る際に使用して下さい。両方の入力端子を使用された場合、5150 は自動的に NORMAL ゲインモードに切り替わります (6dB パッド)。アンプから最大限のオーバードライブサウンドを得るには入力端子両方を使用するのは避けて下さい。ギターを両方の入力で試し、そのギターに最適な音を探してみてください。

5150COMBO

HIGH GAIN INPUT : 様々な楽器に対応する標準的な入力端子です。標準フォンプラグを接続することにより、エレキギターの理想的な音を得られます。ハイ・ゲイン入力はロー・ゲイン入力より 6dB 高く設定してあります。より強い歪みがお好みの場合、こちらの INPUT に入力します。

LOW GAIN INPUT : 非常に高い出力の楽器に使用し、入力を特に歪まないようにします。両方の入力が同時に使用されている場合、出力レベルは同じになります (共にロー・ゲイン)

■チャンネル選択

CHANNEL SELECT : チャンネル選択スイッチ

このスイッチで Rhythm チャンネルまたは Lead チャンネルのいずれかを選択することができます。このボタンが押されている状態の時は Lead チャンネルとなり、Lead Channel のプリ・コントロールの隣にある赤い LED インジケーターが点灯します。また、このボタンが押されていない状態の時は Rhythm チャンネルとなり、Rhythm プリ・コントロールの隣にある緑色の LED インジケーターが点灯します。5150 シリーズにそれぞれ付属している専用フットスイッチを使用すれば足元で切り替えることが可能です。フットスイッチで切替を行う時は必ず、このスイッチを押した状態 (Lead 側) にして下さい。

Rhythm チャンネルと Lead チャンネルには共に LED インジケーターが付いていて、どちらのチャンネルが選択されているのかを表示します。チャンネル選択 LED が 2 つ同時に点灯することはありませんので、インジケーターが点灯しているチャンネルがアクティブ・チャンネルとなります。

■プリゲイン、ポスト・ゲイン

PREGAIN / POST GAIN

プリゲイン・コントロールおよび、ポストゲイン・コントロールはどちらのチャンネルの場合も同じ方法で操作しますが、Lead チャンネルは Rhythm チャンネルに比べてはるかに多くのプリ・ゲインがあります。Rhythm チャンネルを使用する際はプリ・ゲインの設定を音がクリーンで歪まない 0-4 の設定にして、それから、ポストゲインを全体のボリュームに合せて設定します。また Rhythm チャンネルはクランチ・スイッチをアクティブにすることでミディアムレベルのディストーション・チャンネルにすることができます。こうして 2 つのチャンネルのプリゲインをより近づけることができます。Lead チャンネルでは中間にあるプリゲインを高め設定し (5 - 10)、それからポストゲインを全体のボリュームに合せます。

■各種コントロール

EQUALIZATION LOW/ MID/HIGH : イコライジング

5150 シリーズはパッシブの 3BAND イコライザー (ロー / ミッド / ハイ) を搭載しています。

5150II は Rhythm/Lead 各チャンネル独立の EQ となり、5150/5150COMBO については、Rhythm/Lead 各チャンネル共通の EQ となります。

REVERB : リバーブ (5150COMBO のみ)

時計回りにツマミを回しますと、リバーブエフェクトが深くかかります。フットスイッチで On/Off の切り替えも可能です。フットスイッチ左側の Reverb ボタンを踏むと Reverb が ON となり、緑の LED が点灯します。

BRIGHT : ブライト・スイッチ

高域の周波数 (2kHz で 6dB) をブーストします。Rhythm チャンネルにのみ機能します。

CRUNCH : クランチ選択スイッチ

押し込むと Rhythm チャンネルのゲインをブーストし、軽いディストーションを作り出すことができます。5150II では付属のフットスイッチのセンターのスイッチで ON/OFF が可能です。

Resonance/Presence : レゾナンス/プレゼンスコントロール

PEAVEY 社のアンプ独自の機能であるレゾナンス・コントロールは、パワーアンプ回路の段階で低域の補正をし、更なる低域のブーストが可能になります。またプレゼンス・コントロールは高域の補正を行い、高域成分を更にブーストすることができます。

5150II では各チャンネルに、5150HEAD と 5150COMBO は Rhythm/Lead チャンネル共通となります。